TOBU

№ 38　20 III, 1983

百万石蝶談会

HYAKUMANGOKU-TYŌDANKAI

石川県・富山県県境
医王山夕霧峠のメスアカミドリシジミ

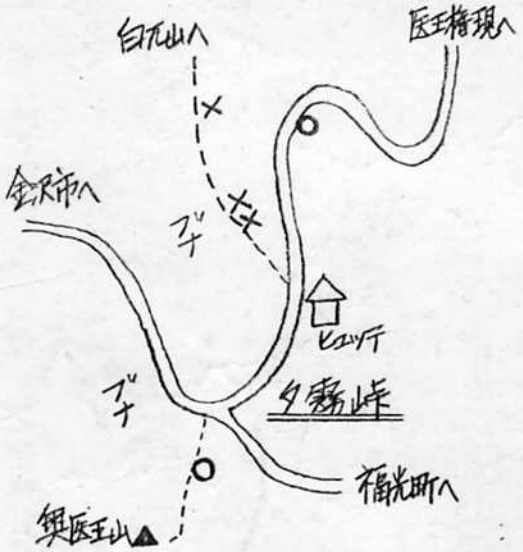
吉村 久貴

3~4年前までは、石川県内でまれな蝶の一つとされていたメスアカミドリシジミも、本会会員らの努力により、各種サクラ類から簡単に採卵されることがわかり、成虫確認の記録は少ないながらも、採卵記録が次々と発表され、加賀地方山間部を中心として数多くの産地が出された。

医王山におけるメスアカミドリシジミの採卵は、金沢市側の大池・重山道路などで既にかなりされているが、県境付近の記録として、あえて今回とり上げてみた。

富山県西砺波郡福光町との境界線沿いでは、野中氏により医王権現付近で採卵された他、夕霧峠付近で筆者により2例、嶮峨井氏により数例の成虫採集が記録されている。

本年(1982)12月4日、筆者は夕霧峠付近でメスアカミドリシジミの採卵を試みたところ、短時間のうちに約20卵を得ることができた。



夕霧峠付近の環境は、ブナが多く、ミズナラもあるがサクラ類は少ないので、筆者の初めの所見では、医王山の中腹で発生した個体が上昇気流にのってあがってきたものが、夕霧峠付近で採集されたのではないかと思っていた。が、どうやら、夕霧峠付近でも、かなりのメスアカミドリシジミが発生していると考えた

○; 成虫採集地点
×; 採卵地点

方が良い様に思う。このことは、あのおびただしい数のアイノミドリシジミについてもあてはまるのではないかと思う。
また、福光町より医王山夕霧峠に至る林道においても、富山県井波町の笹川育也氏によりメスアカミドリシジミ1♂が採集確認されている（未発表）ことを付記しておく。
なお、今回、医王山夕霧峠としたところは、以前より我々が菱広峠と呼んでいるヒエッテの建っているところであるが、金沢中尾山岳会でも『夕霧峠』の呼び名を使っているらしく、また、「石川の山と自然」(*1)においても『夕霧峠』の地名が使われているので『夕霧峠』とした。

(*1) 石川の山と自然（ガイドブック）　花の探険隊 製作　宮誠而 写真監修　1979年発行

大津にて

松井 正人

1982年12月3日、広島支部長の吉岡君のお世話で、水分峡（ミクマリ）（広島県安芸郡府中町）にて、たくさんのサンヨウカンアオイを採らせてもらい、ニキニキしながら新幹線に乗った私は、ムフフの諸道君の待つ大津市へ向った。
大津の瀬田駅には、諸道君と共にイスズロデオビッグホーン4WD新車と一升ビンが待っていた。
その夜はたっぷりと菊正宗を味あわせてもらい、ごきげんで眠り翌4日は採卵、ボーナス受取、採卵という変則シフトを組んで、まず、ウラクロの採卵に出かけ、手頃な時間をみはからって、ボーナスを受け取りに行き、その後は苦労して宇治市炭山へたどりつき、ウラジロミドリの採卵にいそしんだのでした。
この日も諸道君と、とってもおいしい菊正宗を飲んで、楽しく終わりました。
5日も、採卵、カンアオイ採り、採幼といったハードスケジュールを諸道君に組ませ、まずウラナミアカシジミの採卵。
これがなんとたいへんなシロモノでして、なかなか採れなかったのだが、結局、採ってしまった。
このようなたいへんなことは、早々にやめて、例によって御当地カンアオイを たくさん採らせてもらいしミヤコアオイ、大津市大石竜門町山城林道）、その後どこだったかの神社のカエデの木で、ミスジチョウを採る予定であったが、カエデには依然として葉っぱがまるごと付いていた。

あきらめきれずに、木をゆすって葉っぱを落そうとしたのだが、葉っぱはしつこくはりついていた。
採幼はあきらめ、休みの大津市方へ行き、採卵スタイルより三流商社マン風に変身して、その日の内に帰沢しました。
帰り際、大津では珍しい大粒の雨が降ってきました。
末尾ではありますが、今回の旅行でたいへんお世話になりました吉岡泉君、諸道秀人君、諸道おとうさん、諸道おかあさんにお礼を言わせてもらいます。どうもありがとうございました。

DATA

ウラクロシジミ	5卵	大津市上田上大鳥居町	1982年12月4日
ウラジロミドリシジミ	140卵	京都府宇治市炭山	〃
ミズイロオナガシジミ	13卵	〃	〃
ウラナミアカシジミ	5卵	大津市大石曽東町	1982年12月5日

1982年度　採集手記より　その5

白山湯ノ谷採集記

吉村　久貴

今年も恒例の白山湯ノ谷（釈迦道）採集に2度行った。

1982.7.31(土)

午前中の実験の後、正午にCB250Tで出発。市ノ瀬で通行止されることなく、湯ノ谷に到着。ガスが少し出ているせいか蝶影はほとんど見られない。
ヒメオオクワガタでも捜そうかと、ポイントへ行ってみるが、何と、道沿いのヤナギがズタズタに伐採されている。
とうとう、湯ノ谷まで虫の生活環境が壊されていくのかと思っていると、大きな蝶影を認めた。アサギマダラだった。時期がちょうどよく新鮮なる。
しばらく進むと、ブナの研究林付近に着いたが、追飛行動しているミドリシジミ2♂を採集した。しかし、他にはほとんど蝶を見なかった。
筆者は最近、山野草にも興味を持ち始め庭に植えたりしているが、目についた野草も数種、採集した。近藤先生にも同定していただいたが、ソバナ　トリカブト　タマガワホトトギス　カメバヒヤオコシ　ウメバチソウ　などであった。

1982.8.7(土)

金沢に帰省した吉岡氏、竹沢氏と共にカリーナで午後に出発。吉岡氏はアサギマダラ、筆者はヒメオオクワガタが目的だった。あまり時間もなかったこともあって、あまり収穫はなかったが、吉岡氏はアサギマダラを5～6頭採集した。筆者はヒメオオクワガタ2♂♂を採集した。

赤い花の咲き初めのシモツケソウ2株とシロバナホタルブクロも採集したが、筆者にとっては、山野草の収穫の方が喜しい採集行だった。

採集データ　石川郡白峰村湯ノ谷

1982.7.31	アサギマダラ 1♂
	ミドリシジミ 2♂♂
	ヒメオオクワガタ 4♂♂1♀
	アカアシクワガタ 2♂♂
1982.8.7	ヒメオオクワガタ 2♂♂

古い台湾のはなし その2

チョウキチホマレ

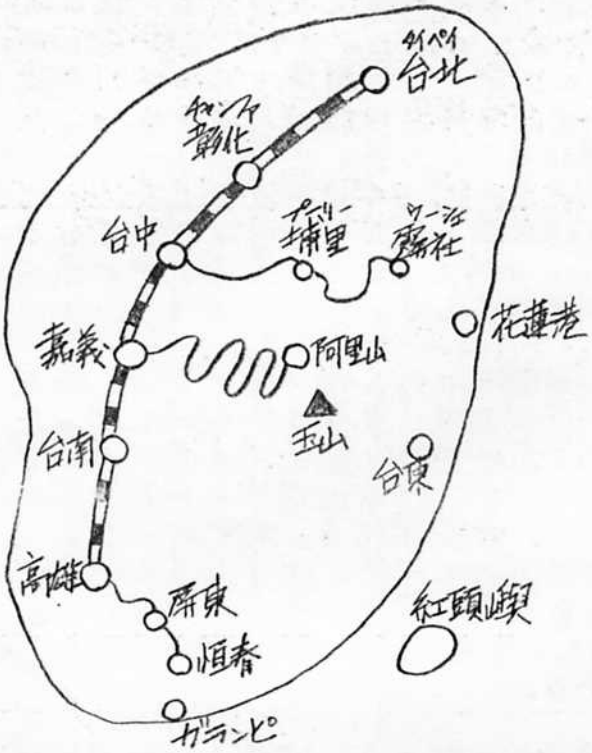
再び嘉義(チャーイー)へもどった我々は、月台(プラットホーム)で列車を待つ。売子が「弁当、弁当」と売り歩いている。どうやら、弁当は日本語と同じ発音らしい。

昔、乗ったことのある3等車並みの車輌に乗って、一路台中へ。

頂度、高校生ぐらいの学生(しもふりの学生服)の通学時間にあたり、彼らの物珍しそうに見る目が痛い。同じ様な顔をしているのに何となく異邦人を感じるのであろうか?

程なく列車は、台中着。少々疲れた我々は、ここでタクシーをチャーター。すぐ、次の目的地埔里(プーリー)へ向ってくれるのかと思いきや、なかなか進まず、台中市内をぐるぐる走りまわり、運チャンは歩行者に対しさかんに「プーリ、プーリ」と叫んでいる。

ようやく運チャンの声に2人程、田舎風の女チャン(たぶん高砂族の人)が応じて我々のタクシーに乗り込んできた。ようやく埔里に向ってタクシーは走り出す。しつまり、台湾では同一方向へ行くのに4人はどうしても乗せて、運転手は効率良く稼ぐ。しかも、我々のあとに乗って来た連中は1/3～1/4以下の料金で乗ってきているらしい。)1時間程つっ走って、台湾の蝶のメッカ、埔里に到着す。



埔里市内には、彼の有名な水生昆虫採集所なる標本商がいる。主人は余成金といい、当時既に、相当なる日本人ムシ屋ぶりしていて、かなり愛想が悪く、しかも標本管理が悪く、サービスも悪いという印象を与えた。

他の小さな標本商の方が、余程愛想よく管理が行き届いていたと記憶している。

採集好シーズンには、埔里市内は日本人ムシ屋で、ごったがえすという。シーズン・オフの当時は我々2人のみのようだった。(注 我々は恒春のキシタアゲハに的をしぼっていた。3月か9月)

翌日、バスで南山渓へ行く。ここは高砂族の棲む村落で、住民はほとんど中村とか、田中、松本といった風に日本名を持っていた。

過去、高砂族の反乱による霧社(ウーシェ)事件という日本統治時代の台湾に、苦い経験が残っているが、我々が会話した高砂族の人達は『あの事件は悪夢のようなもので、私達は今、日本人を尊敬している。日本時代は良かった。また再び日本時代が来ることを望みたい。』と語っていた。(つまり、当時の蔣介石率いる国民党政権に不満を持っている様だった。外省人、内省人差別問題? しかし台湾人と政治に関する話題は控えろと聞いていた我々は、ただフンフンと相槌を打つのみ)

日本に対し好意を寄せるという感じからなのか、何か、彼らは日本人の様な顔に見えてきて、しようが無かった。

南山渓は恒春とはまた違った採集地で、写真などでよく見るトラップの光景が随所に見られる。川原の採集トラップには、ルリモンアゲハ、ホッポアゲハ、ワタナベアゲハ、モンキアゲハ、タイワンモンキアゲハ、ミカドアゲハ、タイワンタイマイ、アオスジアゲハ、メスシロキチョウ

カワカミシロ などおびただしい数が群がる。
ここで若くて美人の王玉玲という女性採集人に逢った。若い女性に目がない2人は、早速、何やかんやと話しかけるが、高砂族には珍しく、全く言葉が通じない。この時期、中部台湾では毎日、午後1時間程度のスコールがあり、この女性の家で雨宿りさせてもらった。
私はこの山地で、初めて蛇に出くわした。小型で小さいが、鋭い三角形の頭部を持つミドリ色のこの蛇はアオハブらしく、これを見つけた私は足が竦んだ。敵は頭を持ち上げて じっとしている。
大野氏が「サガイー 早く来い」と呼んでいる。怖るが声が出ない。この間に大野氏は彼女をものにしてしまったのである……???

南山渓のバス停の近くに杜欽龍という人物の家がある。我々はこの人とひょんなことから意気投合になり、夕食を御馳走になった。話し振りから察するに大変な親日家である。私の日本名は松本であるという。今夜は泊っていけというが、我々は埔里の日月旅社に荷物を預けてあり、予約もしてあるので辞退する。残念そうだ。
私はこの後、数年の間、杜欽龍氏と手紙のやりとりを行っていた。近き将来、再び台湾へ行くことを夢に見て。最近、月刊むしし 号 頁)に久し振りに杜欽龍という名を目にした。健在らしく、また台湾を夢見ているこの頃である。

日程は、またたく間に経過する。我々こっぱ役人には有給休暇取得に限度がある。後髪を引かれる思いで埔里を後にする。
台中から列車で一挙に首都台北へ出る。しばらく振りに忙しい人間生活に戻る。台北市内は騒々しい。人、人、人。車、車、車。
街の中を走る車はほとんど日本製のブルーバードで占る。青鳥(ブルーバード)と書いたエンブレムがついている。フェンダーミラーの無いものが多い。(車検制度はなし) 朝晩の通勤時間帯は、ホンダのバイクが多数を占る。しかもほとんどが2人乗り。後に乗る女性のミニスカートの内側が眩い。田舎者(?)の我々日本人はただ茫然。とにかく、台湾女性はいたって開放的。少しも気にしない。
当時の台湾は、男性はまことに質素。女性は日本とほとんど変らず超ミニ大流行。街の中は日本製の歌謡曲がどこへ行っても聞かれ、西田佐知子の唄(題名を忘れてしまった)や城卓也の「骨まで愛して」などが大流行。我々がこの歌を口ずさむと台湾人はどうしてこの唄を知っているのだと聞く。
この曲は数年前に日本で流行した唄だと答えるが信じてくれず、これは台湾の唄だとがんばる。これが台湾人気質というものだ。
そして日本でもおなじみのジェディ・オングは当地でも大人気し台南

出身、元王族の子孫）で、『陽春的台北』という彼女の歌う曲が流行していた。当然、ジュディ・ファンだった私は、この曲の入ったLPレコード（500円）を買っている。（最近の『魅せられて』のジュディはあまり好きでない。　当時　1＄＝¥360＝40元）

久々に台北で生命の洗濯をした我々は、そろそろ帰国準備だ。自分の記念品を買ったり、いろんな方々より餞別をいただいているお返しなどを購入したり、彼女(?)のおみやげを買ったり……

帰国前々日の夜、知らない男からHotelに電話があった。「日本へ帰る前に是非、私の店でおみやげを買って下さい」とかなりしつこい。とうとうHotelの部屋を訪問してくる。「今晩はどこかで食事をしましょう。」本場、台北料理が北京、四川、広東料理が知らないが、なかなかうまいものを喰わしてくれて、日本人何きのみやげ品店へ連れ込まれた。それ程、金銭を所持していないので、安心安心。

とにかく、日本人＝お金持ちと見るらしい。（注）筆者は日本を出発する時は、30万円しか持ち出さなかった。）喰い逃げみたいな感じでHotelへ帰る。

また電話がかかる。今度は「Showを観ませんか」とか、「美人の女性紹介しますよ」とか、いろいろ攻撃をかけてくる。「今日はもう疲れた。もう寝させてくれ。」ガチャリ。

都会の中国人は嫌いだ。

私の隣りの部屋は、女がキャー、キャー騒いでいる。黒人米兵のKeepしている部屋だ。まだ明るい時間からジープで4～5人の女を乗せ、Hotelに乗りつけてきたのを、ロビーで見ている。

当時、アメリカ（台湾では米国とは書かず美国と書く）は、ヴェトナム戦争たけなわ、戦況おだやかでない頃。

1週間程度の米軍帰休兵の一時休暇のなぐさみものになっている女が、どんちゃん騒ぎをしている。金をふんだんにまき、何時死ぬかわからぬ心の渇えを癒しているその姿は、冲ろ若の我々の目からは哀れさえ感じた。

1970.9.26　我々は楽しかった台湾採集旅行を胸に秘め、大阪への帰路をとる。最後の朝は寝すぎて朝食をとる暇もなく台北松山空港へ。帰りは、キャセイパシフィック（国泰航空、香港）を利用した。

機上の人となって次々と思い出すことは楽しかったことばかり。（筆者は帰りの飛行機でも少々酔った）

あこがれのキシタアゲハ（黄下揚羽）を次山ネットしたこと。写真集などでよく見る蝶の吸水集団を見たこと。南山渓の山奥でグリーンスネークの出現で足がすくんだこと。南山渓でハダカになって川の中でスピードの速いフタオチョウをネットしたこと。墾丁公園の展望台で若いウェイトレスと仲良くなり、筆談で映画の話、若者の話題、万国博のこと、台湾のスター明星（ミンシン）、李青（リンチン）のことなど語り合ったこと。等々、語りつくせない。

機会があれば再度台湾へ行こうと思つつ……
しかし、あれから12年余を経過。チョンガーだった私は、妻あり、3人の子供ありというていたらくの現在。誠に誠にミジメ。
オジンになって昔のことを書いているのである。

《完》

（参考）　台湾での採集品目録（約150種。未同定のものを除く）はとっくりばち24・25号を参照して下さい。

1982年医王山でのゼフ採集の成果

中西　重雄

今年（1982）ゼフシーズンに医王山山麓で採集したゼフ類を記録しておきます。ゼフ採集は、早朝あるいは夕暮れ時に一番多く行ないました。
種々のミドリシジミ類は、活動時間帯が夕方のものと早朝だけ発翅する習性のものがいますが、チョウ達がネムりからさめる前とネムりに入る前に、林に沿って木々の梢を丹念に捜すことで、多くの種類を得ることができました。
また、雨あがりの時もチャンスが多いと思います。このような採集方法では数多くは望めませんが、こまめに採集することにより、数多くの種類のゼフィルスを得ることができて、たいへん喜んでいます。
採集したゼフは種類により1頭ないしは数頭でありますが、次の様なゼフを入手することができました。

① ウラゴマダラシジミ　② ウラキンシジミ　③ アカシジミ
④ オナガシジミ　⑤ ミズイロオナガシジミ　⑥ ウスイロオナガシジミ

⑦ ウラミスジシジミ　⑧ ウラクロシジミ　⑨ ミドリシジミ
⑩ アイノミドリシジミ　⑪ フジミドリシジミ　⑫ オオミドリシジミ
⑬ エゾミドリシジミ　⑭ ジョウザンミドリシジミ

の計14種ですが、医王山で記録のあるメスアカミドリシジミは、得ることができませんでした。

【シリーズ案内&書評】

第3回　広島県のチョウ

吉岡 泉

私は大学の関係から広島市に在住しており、今度『広島県のチョウ』という本を手に入れることができましたので、会員の皆様に紹介したいと思います。

この本は、広島出の会が創立20周年を記念して昨年(1982)発刊されたもので、広島県内産チョウ類127種(迷蝶等は除く)が、写真と共に紹介されています。

その内分けは、アゲハチョウ科12種、シロチョウ科9種、シジミチョウ科44種(ウラギンシジミを含む)、テングチョウ科、マダラチョウ科各1種、タテハチョウ科26種、ジャノメチョウ科セセリチョウ科各17種の計127種となっています。

その中でも、ひときわ目を引くのは、ナガサキアゲハ、ヒロオビミドリシジミ、サツマシジミ、イシガケチョウ、クロコノマチョウ等、石川県内ではお目にかかれない種です。

全体として、記録されている種は、石川県よりもわずかながら多く、気候などの関係から南方系の種が多いようです。

さて、本を開いてまず目につくのは、各種の生態写真のすばらしさです。これらは、本の編集に協力された会員の方々の苦労がうかがえるほどのすばらしいできばえで、皆、美しい写真ばかりです。

敢を言えば、ゼフィルス類に標本写真が多いことですが、これはゼフィルス類の特殊性からいって生態写真(もちろん野外での…)を撮ることは、非常に困難なことから、仕方のないことでしょう。いずれもカラー写真で、初心者の方が見られても、容易に確認できるようにとの配慮がうかがえます。

写真による種の説明の後には、「広島県のチョウ類研究史」「分布の概要」「広島県のチョウ類目録」と続き、県内における分布なども

かなり詳しく紹介されているため、広島県内での採集などには参考になるのではないでしょうか。

とりあえず、簡単な紹介程度に終わりましたが、まずは実物を見てみたいとおっしゃる方は、筆者か会員の吉村氏、松井氏が所持されていますので、そちらの方へお申し出下さい。

『広島県のチョウ』　広島県の会編，中国新聞社刊

1982年9月30日発刊，カラー全208頁　¥2,000－

TOBUTOBUTOBUTOBUTOBUTOBUTOBUTOBUTOBUTOBUTOBUTOBETOBUTONDA

＝編集人より＝　会員の動き・しゃばの動きは休みます。今年の蝶談会の目標は、日曜、見逃しやすい、普通種の記録をストックし、各自分担で発表したいと考えています。まず松井社員はジャノメの類について行なうそうなので、他の方希望の種を決めてまとめてみて下さい。全会員の協力をお願いします。

目　次

石川県、富山県県境
医王山夕霧峠のメスアカミドリシジミ ---------- 吉村 久貴---1

大津にて ---------- 松井 正人---2

1982年度採集手記より その5
白山湯，谷採集記 ---------- 吉村 久貴---3

古い台湾のはなし その2 ---------- チョウキチホマレ---4

1982年医王山でのゼフ採集の成果 ---------- 中西 重雄---8

【シリーズ紹介&書評】
第3回　広島県のチョウ ---------- 吉岡 泉---9

翔　№ 38　　1983年3月20日(日)発行

発　行：　金沢市三口新町4-9-33　松井正人方・石川蝶談会

校正・編集：　吉村　久貴